



札幌市教育研究推進事業改編の背景と方向性

目的

札幌市内の小学校・中学校・義務教育学校・中等教育学校・特別支援学校(小学部・中学部)の教職員が、「札幌市教育振興基本計画」及び「札幌市学校教育の重点」等を踏まえた自主的・主体的な研究活動及び研修を通じ、それぞれの資質の向上に努め、それによって各学校の教育の振興を図る。

「新たな教師の学びの姿」の実現

変化を前向きに受け止め、
探究心を持ちつつ自律的に学ぶ教師

子どもたちの学びとともに、
教師自身の学びの転換を図る必要がある。

▶教師自らが問いを立て実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく探究的な学びを、研修実施者及び教師自らがデザインしていくことが必要
＜中央教育審議会答申(R4.12)より＞

▶社会や学校を取り巻く状況の変化に的確に対応した研修内容が設定されることが重要
＜文部科学省指針(R4.8)資質向上の基本的な考え方より＞

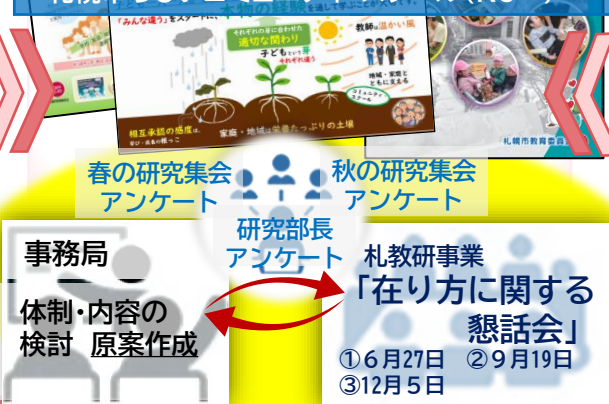
▶校内の同僚教師だけでなく、同一校種の他の学校の教師、別の学校種の教師など日常的に接する機会が少ない教師との協働的な学びは、対話を通じて、他の教師の教育実践を傾聴したり、自らの教育実践を振り返ったりすることで、自らの経験を再構成することにつながり、専門職としての教師の成長がより深化していく。
＜文部科学省指針(R4.8)受講奨励に関するガイドラインより＞

現状の課題

- ▶本事業を各学校で有効に活用すること
- ▶持続可能な部会編成、組織運営の集中、負担軽減
- ▶研究部会に参加しやすい環境づくり など
＜R5第2回運営委員会説明資料より＞

札幌市学校教育の動き

- ▶札幌市における「小中一貫した教育」(R4～)
- ▶札幌市らしいコミュニティ・スクール(R6～)



「札幌市教育振興基本計画」



札幌市教育ビジョンにおける「札幌市教育研究推進事業」

- ▶基本的方向性1:一人一人が自他の良さや可能性を認め合える学びの推進
- ▶施策1-1:主体的に考え行動する力を育む教育活動の推進

成果指標	現状値 (R4)	目標値 (R10)
自分の目標をもって生活している子どもの割合	—	80%
疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている子どもの割合	78.1%	85%

事業改革の方向性



これまでの札幌市教育研究推進事業のよさも残しつつ、
時代に合った札幌市教育研究推進事業の在り方を目指す

※小中一貫した教育、コミュニティ・スクールの導入、ICTの活用等、
近年の学校を取り巻く教育課題が変化

- 教科等に関する専門性を高める
- 学校の枠を越えて、他校の先生と学び合う機会を位置付ける
- どの学校、どの職員も、学びやすい体制の整備を図る
- 運営の集中を避け、負担軽減を図る
- 札幌市の「小中一貫した教育」の推進を図る

教科等の専門性を磨き続け、
世代、校種を越えて協働的に学ぶ札幌市教育研究推進事業



令和6年度からの札幌市教育研究推進事業概要

教科等の専門性を磨き続け、
世代、校種を越えて
協働的に学ぶ札幌教育研究事業

小中一貫した教育の推進

- ▶ グランドデザインの目指す子どもの姿
- ▶ 子ども理解・生徒指導の連続性
- ▶ 家庭や地域との関わり

- ▶ 9年間を通した子どもの学びのつながり
- ▶ 教職員の連携・協働

▶ 8月に多くの中学校区で行っている授業交流及び合同研修会等を「春の研究集会」で全市的に実施するイメージ

<例2>



A小学校で2つの授業公開

各学校の教職員が、A小学校に集合し、参観&協議&研修

各学校で1つの授業公開



地域

第2回校内研究・研修推進委員会

春の研究集会

▶ 日常の授業を通して学ぶ

秋の研究集会

▶ 研究授業を通して学ぶ

